

様式(細則 5-2)

平成30年1月26日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察・研修)を(実施・受講)したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 間 平成30年1月16日(火)13時30分～17時
- 2、研修内容 6次産業化・農商工連携フォーラム
- 3、研 修 先 いいオフィス広島(広島市)
- 4、調査経費 5,340円(経費内訳 高速バス広島往復)
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



1 日 時 平成30年1月16日（火）13時30分～17時

2 場 所 いいオフィス広島（広島市）

3 概 要 行政発表（中国四国農政局・中国経済産業局）・事例発表（次のとおり）

- ① 良品工房の白田典子さんは、『商品パッケージにシールを貼るだけで売れたこと、付加価値をつける、容器や包装のデザインの斬新さやユニークさ、「新年のあいさつ」「冷やして」「クリスマス」など季節や時期に応じたパッケージ、美味しいもの、いいもの、正しいものが売れるのではなく、消費者が欲しいものが売れる。商品化には隠れたもの、意外なものとの発掘が重要。素朴な味、添加物なし、昔ながらなども人気がある』
- ② 道の駅萩シーマートの中澤さかなさんは、『「眠れるお宝資源は、まだ、きっとそこにある」として、萩で獲れるアマダイをフランス料理などに使い「平成の出世魚：金太郎」として売り出し魚価が上がり活況を呈している。「萩野菜のピクルス」は規格外農産物をプレミアム商材にして、規格外の野菜を加工し瓶詰し商品化して売る。「沖縄ひもの作戦」は、ありそうで無かった沖縄魚を干物製品にし、沖縄魚は淡白で、水気が多く干物にすることで味が良くなる。熊本県芦北町ではうたせ網漁による天然エビを直売食堂で展開している』
- ③ Sプロデュースの下宮勇生さんは、『高校生の起業家精神育成事業として、高校生が地元の金光味噌に「ゆずコショウ」を加えて商品開発しマヨネーズ容器で使いやすくした。休耕田でのナマズを養殖しそれをカレーパンの具材に。大朝町のアグリカルチャーラボは、耕作放棄地を活用したトマト、ズッキーニ、パセリなどイタリア料理に使用される彩のある野菜を栽培、収穫体験、観光農園、販売など大朝地域でも稼げる農業を実践している』
- ④ YUTTE（ユッテ）デレクターの売豆紀拓さんは、『島根のギフトブランド「YUTTE」を立ち上げ、島根の工芸と食を組み合わせる、ポイントは、メイド・イン・シマネ、仕立ての良い貼り箱、作り手を知らせるリーフレット。山陰の良品を知るきっかけをつくり生活の中に取り入れる人を増やしていく。ターゲットは、コアなファン・興味がある人・使ったことがある・食べたことがある、伝える価値は、質の良さ・手仕事・希少・伝統』

4 所 感

- ① 農林水産業からの6次産業化は、1次産業として生産し、それを製造業で商品化し、販売小売業と一連の流れで推進し、地域資源を活用し新たな付加価値を生み出すことであり、上述のように多様な商品開発が可能である。
- ② ユニークな発想、多職種連携、消費者目線、女性や若者、よそ者の発想力などがカギを握り、その中から斬新なもの、意外性のあるものなどが生まれる。それを実現するには生産者と消費者を近づける、物語性をつける、他者の参画などが必要である。
- ③ 浜田市では、次のような商品開発が取り組まれており、本格的な商品の量産化、販路拡大などに向けた取り組みへの支援が必要であり、議会としても能動的な対応が重要である。
「はまぼこ」山本蒲鉾店（浜田市と島根県立大学の共同研究事業）
「のどぐろ缶詰」シーライフ（島根県水産技術センターとの共同開発商品）
「のどぐろふりかけ」シーライフ（浜田水産高校と共同で新商品開発）
「ももグラッセ」森本商会（摘果した果物で本来の味を生かした商品開発）
「カフェオレベース」ナマケモノ珈琲（浜田産はちみつを入れたカフェオレベース）
その他「亀谷窯業の瓦製品」「吉原木工所の組子」「雪舟窯の石見焼」「石州和紙商品」など